令和5年度 青少年育成作文 優秀賞②

青少年育成推進協議会では毎年、小中学生を対象に作文と標語を募集しています。今年度の優秀賞と特別賞を紹介します。

学校をよくするために

南関第三小学校　六年
城戸（きど）　碧渚（あいな）

私は、六年生になって企画委員会の委員長になりました。企画委員会では、学校をよくするためにいろいろな活動をしています。

一つ目は、あいさつ運動です。毎週月曜日に児童玄関前に立って、みんなが登校してきたらあいさつ運動をしています。元気で気持ちの良いあいさつを心がけていますが、あいさつをしても小さな声で返す人が多く、自分からあいさつをする人も少ないです。だから私は、あいさつ運動を続けてよくできた人を放送するなどして、三小が元気よく大きな声であいさつする人が多くなってほしいです。元気な挨拶がたくさん響けば、もっと活気のある三小になると思います。

二つ目は、生活目標です。私たちは、一か月間の生活目標を決めて一か月の内、一週間だけ生活目標が達成できたかふり返ってもらいます。一番達成できた学級を放送しています。しかし、私はあまり効果がないように感じています。だから、みんなが生活目標を守れるようになるために一週間のふり返り週間だけではなく毎日帰りの会の時に日程としてふり返ってもらいたいです。三小のみんなが生活目標や学校のルールを毎日きちんと守れるようになれば、学校内で友達とぶつかってけがをする人が少なくなると思います。私は、生活目標や学校のルールを守って学校内でけがをする人が減れば今の三小よりもっと元気に過ごせると思います。

その目標が実現できるようになるために、自分たちでできることを考え、実践していきたいと思います。

バスや電車の思いやり

南関第四小学校　六年
平嶋（ひらしま）　心光（こころみ）

「ガシャン」

と電車のドアが開く音がしました。私がその電車に乗ると、すでに座席は残り少なく、私が座るともう満席になってしまいました。バスや電車には優先席といって、お年寄りやけがをしている人、にん婦さんなどが座れるようにしてある席がありますが、そこも座っている人がいました。

私が座った後に、一人のおじいさんが乗ってきました。でも、優先席もどこも空いていなくて、そのおじいさんは立ったままでした。電車が発車すると、おじいさんはふらふらしてとてもつらそうでした。すると、近くに座っていたおばあさんがおじいさんに声をかけて立ち上がり、自分の席をゆずっていたのです。私はあわてておばあさんに

「代わりますよ！」

と声をかけて、自分の席をゆずりました。おばあさんはとてもうれしそうに笑顔で

「ありがとう、優しいね。」

と言ってくれました。私もうれしくなって、席をゆずってよかったなあと思いました。

この時は、すぐには声をかけられず、見ていることしかしていなかったけど、これからは、バスや電車で座席が空いていないときにお年寄りやけがをしている人、にん婦さんなどが目の前にいたり、立ってきつそうにしていたら、すぐに声をかけて席をゆずりたいと思いました。

他にもこんな場面を見たことがあります。座席に自分の大きな荷物をおいていて、立って乗っている人がたくさんいるのに、席をあけずに座っている人。イヤホンをつけて音楽を聞いていて、リズムに乗って歌い出す人。この人は、周りの人が注意をしているのに、イヤホンの音が大きすぎるのか、注意を聞かずにずっと歌っていました。このような周りの人に迷わくをかける人にならないようにしたいし、注意をする人になりたいと思います。

バスや電車でこのような人と出会ったら、声をかけて席をゆずったり、注意をしたりして、みんなが気持ちよく乗れるようにしていきましょう。小さな思いやりを大切にしていきましょう。

お母さんのように

南関中学校　三年
小竹（こたけ）　陽菜（ひな）

「私のお母さんはとてもすごい。」

私は自信を持って言うことができる。

私のお母さんは自分の中で一番尊敬できる存在である。ご飯を作ってくれることももちろんだが、部活の大会の時も毎回朝ご飯とお弁当を作ってくれる。「明日は何時起きかな？三時かなー。」などと言い、文句を言わずに作ってくれるのだ。私が朝起きるともうできていて「今日もがんばってこい！」と背中をたたかれる。私は肩の力が抜けて頑張ろう！と思うことができるのだ。そしてお母さんはとてもたくましくて責任感がある。学校のコーディネーターやクラブのコーチも務めている。いつも人のために行動しているお母さんはすごい。自分だったらすぐ疲れたり、弱音をはいてしまうからできない、私はそう思う。一つのことをみんなに楽しんでもらえるように少しでも自分なりの工夫を入れるお母さん。どれも全部私のお母さんだと思うとすごくほこりに思うのだ。

でもそんなお母さんと私はよく衝突が起こる。きっかけはほんのささいなことだ。

私が中学校に入ってまだ少しの時、テストが近づき、どんな感じで勉強をすればいいか分からなかった。部活の休みはテストに入るまで始まらない。ワークも終わらずあせりと疲れだけがどんどんたまっていく。そんな中で妹が友達を家に呼ぶと聞いた。私は静かに家で勉強したいのに。とうとうたまったイライラが爆発してしまったように妹に文句を言ってしまった。妹は泣き出す。お母さんはかけつけ、

「いいじゃないの！お母さんの部屋貸すからそこでしなさい。」

といった。私はそんなお母さんの気遣った声かけさえにもイラッとしてしまった。そんなとき、妹の友達が来てしまった。お母さんの部屋を借りると負けな感じがした。だから今いる場所でした。当然うるさくて集中ができない。その時お母さんが

「向こうの部屋で遊びなさい。」

と言った。妹と友達は向こうの部屋に行く。私はどんどん胸が苦しくなっていく。

（ああ、私が部屋を借りればよかったのに。自業自得になった私まで救ってくれるなんて。）目から自然と涙がこぼれそうになった。するとお母さんは

「これで静かになったけん、集中できるね。」

と私に笑いかけてくれたのだ。

私はこのことがあり、もっと自分を見つめてみようと思うようになった。イライラしている時、だれかにあたっていないか、だれか人のせいにしていないか。そう思うと悪いところはたくさん出てくる。すぐに直すことなんて人だから簡単にはできない。だから私はお母さんを手本にしてみようと思うようになった。お母さんは人が困っている時、悩んでいる時その人によりそってくれる。お母さんは絶対人のせいにしない。お母さんのいい所はたくさん出てくる。もちろん、私が知らないだけであって、お母さんにも悪い所があるのかもしれない。そんなところを私が支えてあげられるようになりたい。正義のヒーローでも全部完璧というわけではない。だから仲間や家族がいるんじゃないかなと私は思う。

私はお母さんが大好きだ。

「お母さんのようにたくましく、人によりそえるような人になりたい。」

これを達成するために今まで以上にいろんなことに挑戦して困っている人を支える。そんな人に私は絶対なる。

★特別賞
ぼくにもできるSDGs

南関第四小学校　五年
田畑（たばた）　友雅（ゆうが）

SDGsとは、世界のさまざまな課題を解決するために、世界の人たちで話し合って、決めた十七の目標です。

ぼくは、SDGsの活動について、べんきょうしました。

実は、十七の目標は、五つにわけることができます。頭文字をとり、「五つのP」と言います。

①「人間」、人が人らしく生きていくために確実に保証されることについて。

②「豊かさ」、けいざい的な豊かさや技術、産業、インフラなどについて。

③「地球」、自然環境について。

④「平和」、戦争やぼう力や不正のない世界の実現について。

⑤「パートナーシップ」、目標を実現させるために、みんなが協力することについて。

の五つにわかれます。

ぼくは、その五つの中の③の環境について、SDGsの十七の目標の七、エネルギーをみんなに、そして、クリーンについて考えました。

ぼくは、クリーンパークファイブに行って、色々なゴミの分別について見学しました。学校行事の資げん回しゅうが何で行われているのか少し分かったので、家でもペットボトルやビンなどを分別するように協力していきます。ほかには、もやす熱を利用して温水プールなどにエネルギーを再利用することを学びすばらしいSDGsだと思いました。

また、目標の十四の海の豊かさを守っていこうについて、五ミリ以下の小さいマイクロプラスチックの粒が、雨や風により川に流れつき、そのまま海に流れこんでいって、そのごみを魚たちがえさとまちがえて食べたり、ネットにからみついてしまい命を落としてしまいます。そのマイクロプラスチックは、一度流れ出ると、自然には分解されず、海をただようことになってしまいます。実際にぼくもつりに行ったときに大量のゴミが海にながれついているのを見て、びっくりしました。

クリーンパークファイブで学んだ3R「リデュース」ゴミになるものをへらす、「リユース」くり返し使う、「リサイクル」再利用する。この3Rでプラスチックを資げんとして有こう活用できれば、海のゴミとなるプラスチックをへらすことができることを学び、身近な生活の中で、ぼくにもできるSDGsを見つけて取り組んでいきたいと思いました。